

やつ が たけ こう げん おん がく どう
八ヶ岳高原音楽堂



世界的なロシア人ピアニスト、
スヴァトスラフ・リヒテルさんの提案により、
日本を代表する建築家である吉村順三さんによる
設計で1988年に完成した、自然と調和した音楽ホールです。

木のぬくもりに溢れ、クラシック音楽の演奏に適した
響きの豊かな音楽ホールにするために

カラマツ材がふんだんに使用されています。

特にホールを支える10本の柱は、

その美しいたずまいを印象深くしています。

そして、リヒテルさんと、日本を代表する作曲家である
武満徹さんによる助言で、他にはない魅力的な演奏会が企画され、
世界的な演奏家たちによる数多くの名演奏が
奏でられてきました。

主 催

株式会社 八ヶ岳高原ロッジ

会 場

八ヶ岳高原音楽堂

協 力

久保田チェンバロ工房、双葉林業合資会社



八ヶ岳
高原
音楽堂



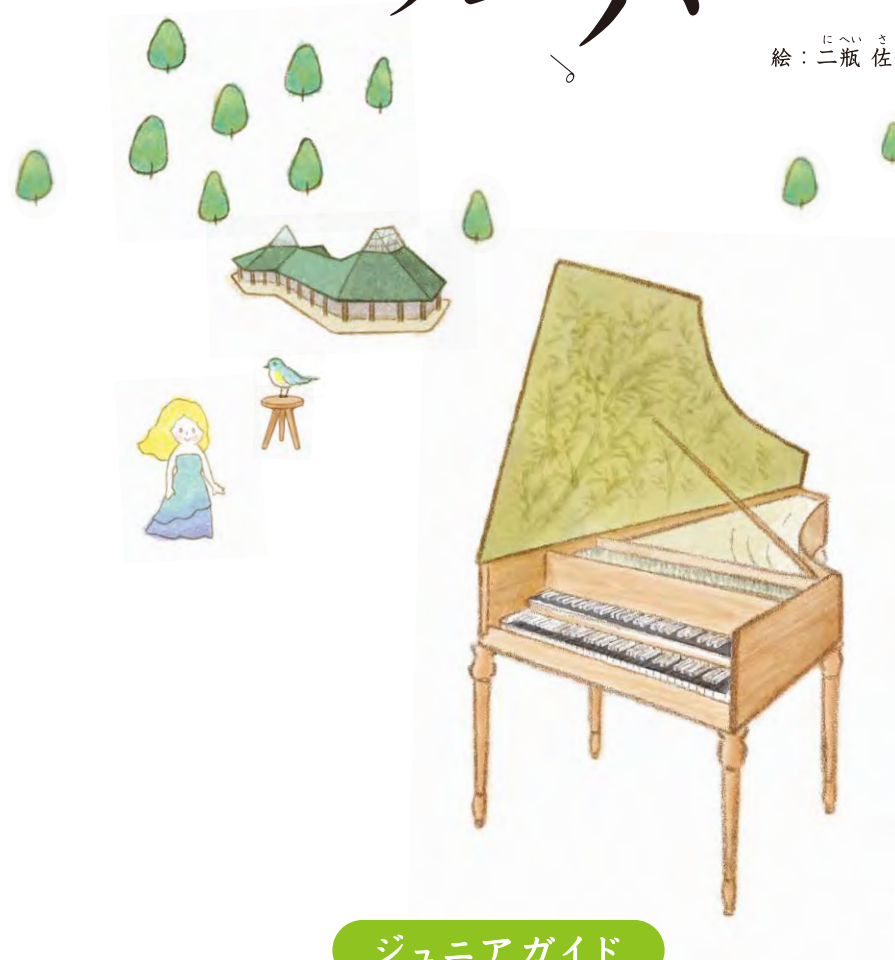
www.seibu.jp



www.sogo-gogo.com

やつ が たけ 八ヶ岳 カラマツ チェンバロ

絵：二瓶 佐知子



ジュニアガイド

森の音楽会、 はじまり、はじまり…

ようこそ、森の音楽会へ。

今日の主役は、このハケ岳の森から生まれた楽器、チェンバロ。

見た目はピアノに似ていますが、ずっとずっと繊細な楽器です。

静かな森にいます、「鳥のさえずり」や「木のざわめき」が聞こえてきます。

同じようにして、「チェンバロの音」にも耳をかたむけてみましょう。

この森から生まれた楽器の音色は、

わたしたちに何を教えてくれるのでしょうか。

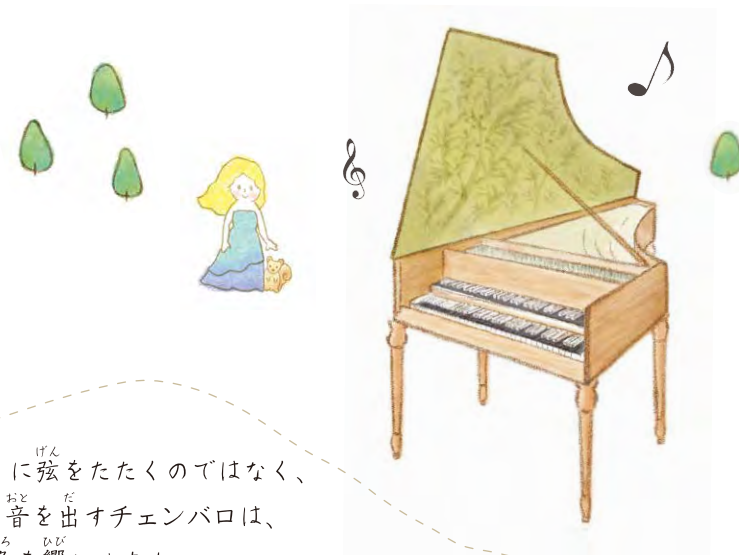


チェンバロってなに？

チェンバロが発明されたのは、約500年前のヨーロッパです。
当時の貴族たちに好まれていましたが、
時代が変わるにつれて、世の中から忘れられてしまいました。

ピアノと比べてチェンバロは音も小さく、
大きなホールでの演奏に向いていません。

しかしピアノにはない美しさに、少しずつファンが増えていきます。
チェンバロ製作家の久保田彰さんに話を聞いてみましょう。



ピアノのように弦をたたくのではなく、
弦をはじいて音を出すチェンバロは、
心地よい音色を響かせます。

ハケ岳高原音楽堂は、その音色を楽しむのに最高の音楽ホールです。

チェンバロはポプラの木でつくられることが多いですが、

ハケ岳で育ったカラマツは

美しく力強い木目を持った楽器に適した木と考え、材料に選びました。

ふたを開けると華やかな金箔の模様が見えるようにしました。

森の恵みが形になった、世界で1台だけの楽器です。

楽器をつくる人

くぼた あきら
久保田 彰さん



1953年東京生まれ。
美術学校在学中から独学でチェンバロの試作を重ね、
1981年に工房を設立。
国内きってのチェンバロ製作家として
主要ホールなどに納品している。

それでは、森をのぞきに行ってみましょう。

シラカンバやダケカンバ、ヤエガワカンバなどの木をはじめ、
八ヶ岳の周りには、豊かな森が広がっています。

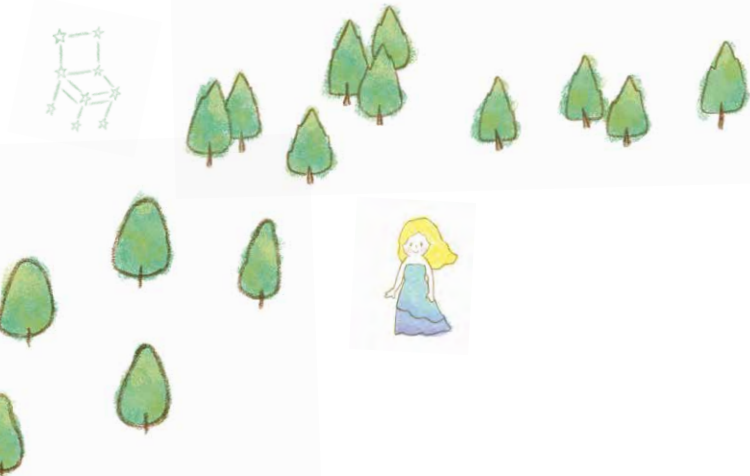
そして、みなさんがここに来るときに通ってきた並木道が、
チェンバロの材料になったカラマツです。

この森には、ルリビタキ、コルリ、オオルリなどの青い鳥や、
コマドリ、ミソサザイなど水辺にすむ野鳥が暮らしているほか、
ニホンジカ、カモシカなどの大型動物、
キツネ、タヌキ、テン、野うさぎなどの小動物も見られます。

森を見に行こう！

木を育て、 そして切る

長野県は、昔から林業が盛んな地域です。
今回、チェンバロをつくるために使われたカラマツは、
八ヶ岳高原音楽堂のすぐ近く、
長野県川上村で育った樹齢100年以上の木が選ばれました。
地元で林業を営む高見澤敏明さんに
話を聞いてみましょう。



木を植えて、育てることも林業の大切な仕事です。
おじいさんが植えた苗木をお父さんが大切に育て、
やっと孫の代になって木材にする。
そんな気の長い仕事でもあります。
よく「地球から森が減っている」というニュースを耳にするとおもうのですが、
森を守るといことは、まったく木を切らないということではありません。
木を植え、育て、バランスよく使うことで、
豊かな森をずっと残すことができるのです。

木を育て、切る人
高見澤 敏明さん



1961年長野県南佐久郡南牧村生まれ。
双葉林業合資会社代表。
親子3代にわたって林業と製材を営む。
川上村で育てた100歳のカラマツを原木から製材した。

チェンバロが奏でる美しい音色は、

今も昔も変わりません。

音楽は世界中で、変わらずにわたしたちをいやし、

感動させてくれます。

そして、この地球をおおっている森も、

昔と変わることなく、

わたしたちの暮らしを豊かにしてくれています。

鳥の鳴き声や木々のそよぐ音など、

森が奏でる音に、耳をかたむけてみましょう。

豊かに生活をする木や森は、
してくれる



森の音楽会は、学校で勉強する社会や理科、

図工などにも結びつきながら、

自然がわたしたちの暮らしに欠かせない

存在であることを教えてくれています。

さまざまな人の手で守り続けられてきたおかげで、

わたしたちは自然や、音楽に感動することができます。

みなさんが大人になっても、

同じようにして、子どもたちが受け継げるように

この豊かな自然を守っていききたいですね。

